



著者：Miroslav Volf

1956年旧ユーゴスラヴィアのクロアチアで生まれ、セルヴィアで育つ。父はペンテコステ派の牧師だった。ザグレブ大学およびザグレブ福音神学校を卒業後、アメリカのフラー神学校で修士、ドイツのチュービンゲン大学で博士を取得。フラー神学校教授を経てイエール神学大学院教授。組織神学、公共神学、またイスラームとの対話など、数多くの著作がある。

訳者：ひこた・リヤコ

1981年生まれ。東京大学文学部・同大学院哲学専攻修了、ハーバード大学で神学修士、エディンバラ大学で神学博士取得。パリ・カトリック学院、アイヒシュテット・インゴルシュタット・カトリック大学で研究生活を送る。ケンブリッジのマーガレット・ボーフォート神学研究所のリサーチ・アソシエイト。



「『クリスチャニティトゥデー』誌が「20世紀で最も影響力ある100冊」に選んだ書の待望の邦訳。

排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・和解の神学

ミロスラフ・ヴォルフ「著」／彦田理矢子「訳」

◆ A5判・560頁・定価7920円

2月25日発売

憎悪と暴力が渦巻く世界の中でキリスト者は？

異質な者を憎悪し排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し抱擁することができるのか。

暴力が猛威を振るう現代世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な旧ユーゴ内戦を経験した著者は、罪と赦しの問題を、幅広い論客と対話しつつ十字架の神学に基づいて徹底的に考え抜く。著者は本書を自らの知的葛藤の記録と呼ぶ。

と同時に霊的旅路の記録とも呼ぶ。

「『クリスチャニティトゥデー』誌が

「20世紀で最も影響力ある100冊」に選

んだ書の待望の邦訳。

【目次より】

序章 アイデンティティの復活

第1章 十字架、自己、そして他者

第2章 距離と帰属

第3章 排斥

第4章 抱擁

第5章 抑圧と正義

第6章 欺瞞と真理

第7章 暴力と平和

終章 二十五年の時を経て

付録 三位一体、アイデンティティ、自己贈与

聖書翻訳と宣教

日本語訳聖書関連資料の研究

吉田新〔著〕

翻訳はどのように作られてきたのか？



日本語訳聖書は口語体から文語体、そして再び口語体へと変化していった。本書はこの文体の変遷に注目し、膨大な資料に基づいて先人の労苦の跡を辿り、狭義の言語論を超えて宣教論の観点から新たな翻訳論を切り拓こうとする。豊富なカラー写真で翻訳草稿を紹介。

著者よしだ・しん氏は1978年生まれ。立教大学大学院博士前期課程修了後、2010年、ハイデルベルク大学にて神学博士号取得。現在、東北学院大学文学部総合人文学科教授、同学科長、同大学キリスト教文化研究所所長。【著編書】『バプテスマのヨハネ』（教文館、2012年）、Trauerarbeit im Uchristentum. Auferstehungsgelebe, Heils- und Abendmahlslehre in Kontextchristlicher Verarbeitung von Schuld und Trauer, Göttingen 2013『聖書註解 ペトロの手紙Ⅰ』（一麦出版社、2024年）、『福音とは何か―聖書の福音から福音主義へ』（編著、教文館、2018年）、『苦難と救済―闇の後に光あり』（編著、教文館、2020年）。

2月25日発売

◆A5判・336頁・定価6600円

【目次より】

- 序章 聖書翻訳の文体とキリスト教宣教
- 第二章 日本語訳聖書の黎明
 - マラン手稿（一八五三年）について
- 第三章 初期日本語訳聖書の文体
 - 「三要文」から明治元訳へ
- 第三章 「名訳」誕生への道のり
 - 大正改訳新約聖書稿本について
- 第四章 戦時下の聖書翻訳
 - 明治元訳改訳事業について
- 第五章 新時代の聖書翻訳
 - 口語訳の翻訳過程
- 第六章 「開かれた聖書」への試み
 - 共同訳の挑戦
- 終章 初めにハリスの聖書があった

グラント・ワッカー著／相川裕亮、田中稔人訳

ブリー・グラハム ひんがひんがの魂

第二次大戦後のアメリカで最大の福音派伝道者の評伝。その生い立ちから精神形成期の歩み、そして頭角を現し歴代大統領に大きな影響力を振るった経緯を、グラハム研究の第一人者が詳細に記述する。原書二〇一九年の最新評伝。

四六判・予価5000円

ヘルマン・フィッシャー著／伊藤慶郎訳

シュライアマハー 生涯と思想「仮題」

シュライアマハーは、近代において最も重要なプロテスタント神学者である。神学のみならず哲学で、またプラトンの翻訳者として卓越した業績を残した。本書は、シュライアマハー全集の編集責任者だった著者が、最新の研究動向に基づき、伝記上の重要な出来事や作品の概観に加え、彼の哲学・神学作品全体の解釈を提供する。四六判・予価3500円

ヴォルフハルト・パネンベルク著／佐々木勝彦訳

組織神学 第二巻

邦訳全三巻がついに完結。この第二巻では、創造論、終末論、人間学、キリスト論、和解論が独特無比な仕方で開催され、20世紀の後半における最大の組織神学的収獲であるパネンベルクの体系の、中核と全貌がここに明らかとなる。

A5判・予価9000円

● 1月に出版の本と雑誌

道を歩む

十字架と復活に向かう
非暴力のイエスに従って

ジョン・デア著／志村真訳



ローマ帝国が十字架でイエスを殺し、現代の帝国がドローンで市民を殺す。だがイエスは十字架の政治学に復活の政治学で対抗し、新しい命をもたらしたことを、福音書の丁寧な読解を通して明らかにする。

◆四六判・定価2200円

わたしは神の恵みを無にはしない

吉平敏行著 ガラテヤ書の私訳と解釈



NPP(パウロへの新しい視点)を中心とする近年のパウロ研究と批判的に対話しつつ、丁寧な釈義によって、パウロの宣教の核心である信仰義認の本質に迫る。

◆四六判・定価1760円

福音と世界

2月号 特集Ⅱ裁き

人による人への裁きから離れて

特集寄稿…有住航、安田真由子、河野真太郎、堀越耀介、

長島皓平、彫真悟

寄稿 ただそこにいる——グリーンフケアのアポリア(西平直) 連載 富田正樹、長尾優、戒能信生、福岡揚、陶山義雄、田島卓、山崎ランサム和彦

◆定価660円

販売部から

既に昨年SNSで告知いたしました、月刊誌「福音と世界」を主に取り扱っている小社のウェブショップが昨年末よりお引越しました。お手数ですが、新しいURL (<https://shinkyoi944.baseshop>) より、ウェブショップをご利用くださいますようお願い申し上げます。これまでウェブショップでは最新号から2019年のバックナンバーまでを取り扱ってまいりましたが、この度のお引越しに合わせて、バックナンバーのラインナップの拡充に取り組んでおります。現在は2018年のバックナンバーまでご購入いただけるようになっており、

今後は年代を順に遡っていき、より多くのバックナンバーをごちからからご購入いただけるよう整備してまいります。現在はウェブショップで取り扱っていない年のものもあつても、遡ること2005年までのバックナンバーの在庫を直販しております。中には在庫僅少のものや欠品となつてしまつていたり、経年劣化をしていたりする号もございますが、商品の在庫やコンディションの確認、そしてご購入はいつでも承っております。お気軽に小社公式ホームページやウェブショップよりお問い合わせくださいましたら幸いです。(隅田)

■立ち読みコーナー■ (近刊書からときどきご紹介します)

思い出してみよう。ドウルーズによれば、地上のイエスの無私の愛は、天の主による恐怖への道を整えている。なぜなら自己の否定は自己の抹消の第一段階であり、それには自分の自己と他者の自己の両方が含まれるのだから。しかし、ドウルーズのこの物語の読み方は意味を成しているだろうか。なしてはいない。十字架は、暴力を裏書きする種類の自己否定の悲劇的な結果ではなく、暴力の世界において神の平和のために格闘した自己の人生にふさわしい結末である。十字架につけられたメシアが暴力に挑む次の四つの方法を考えてみよう。第一に、十字架は暴力の循環を破る。十字架につけられたイエスは、……

ミロスラフ・ヴォルフ著『排斥と抱擁』(2月25日刊) より

福音と世界

2026年
3

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8760円

特集・キリスト教と政治

——政治神学の可能性をめぐって

政治神学の復権 合衆国の統治を支える

アイデンティティをめぐって 加藤喜之

ボンヘッファーの国家観 岡野彩子

「委任理論」を中心に 伊藤 孟

「共生の喜び」とは何か アーレントの

「出生性」の議論に即して 伊藤 孟

なぜ今、日本人は戦前の体制へ引き寄せられるのか? ポピュリズムと「権利意識」の

危うさ 森島 豊

近現代台湾の歩みと「台湾人キリスト者」の

使命 自決権を求める人々の神学 三野和恵

韓国における政治神学の岐路と行方 洪 伊約

12・3 戒厳後の政治的分断と神学の根拠

【時評】第二次トランプ政権下の大学弾圧と

キリスト教 木村 智

【新連載】私が会ったことは 1 川本隆史

【好評連載から】 富田正樹

◆人物・日本キリスト教史 9 戒能信生

◆ばやし牧師のさすらい説教録 12 富田正樹

◆異端者の世界航海 12 福嶋 揚

◆証言としての旧約聖書 23 田島 卓

◆新約釈義 ルカ福音書 51 山崎ランサム和彦